

越谷北高新聞

発行所
越谷北高等学校
新聞部・委員会
郵便番号343-0044
越谷市大泊500-1



http://www.koshigayakita-h.spec.ed.jp

第445号(特別号)

特別展「昆虫」プレス内覧会 多様な方法で魅力を伝える

7月12日に国立科学博物館で開かれた特別展「昆虫」プレス内覧会に新聞部から4人が参加し、監修者の野村周平さんにインタビューをした。特別展の会期は7月13日から10月8日だ。

特別展「昆虫」プレス内覧会は13時から15時の間開かれ、多くの報道陣やゲストが訪れた。また会場の冒頭に監修を務めた4人の先生からの挨拶もあり、各自が特に力を注いだ展示について説明した。全体は5つのテーマに分かれており、昆虫の生態や多様性などがテーマに即して詳しくかつわかりやすく解説されている。他にも昆虫の採集方法やコレクションも紹介

されていた。生きている昆虫の展示もあり、多くの人を楽しませていた。今回の特別展では日本最大の甲虫類で、国の天然記念物に指定されているヤンバルテナゴコガネのホロタイプ標本が展示されている。ホロタイプ標本とはその種の基準になるもので、1つの種につき世界に1点しか存在しない、貴重な標本である。また、ホロタイプが現存する限りその生物の学名はこれを基準とする。現在に至るまで破損や盗難の心配から一切公開されることはなかったが、今回初めて展示されることになった。また、既に絶滅したアリエノブ

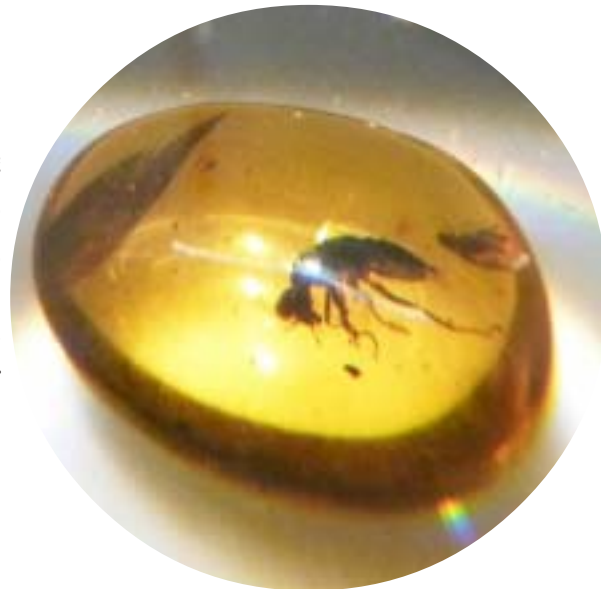
テラ目(1億年前のミヤンマー産琥珀の中に閉じ込められた状態で見られ、実物も展示されている。系統的にはカマキリとゴキブリの間に位置付けられている。これは日本では初公開だ。内覧会の後に開会式がおこなわれ、主催者や来賓の挨拶があった。主催は国立科学博物館と読売新聞社、フジテレビジョンの3つで、後援は文部科学省、協賛は、光村印刷、トビー工業だ。最後にテラ目パックが実施され開幕を祝った。



緑色に輝くヤンバルテナゴコガネ



中心はヘラクレスオオカブト



琥珀の中のアリエノブテラ目

る。系統的にはカマキリとゴキブリの間に位置付けられている。これは日本では初公開だ。内覧会の後に開会式がおこなわれ、主催者や来賓の挨拶があった。主催は国立科学博物館と読売新聞社、フジテレビジョンの3つで、後援は文部科学省、協賛は、光村印刷、トビー工業だ。最後にテラ目パックが実施され開幕を祝った。



ニホンミツバチがずらりと並ぶ

監修者 野村周平さん 「ねらいは昆虫と共存できること」

監修者の1人であり、国立科学博物館の陸生無脊椎動物研究グループ長を務める野村周平さんにインタビューした。まず昆虫展を開催したねらいについて尋ねた。「現在、昆虫嫌いの人が増えていきます。また、虫よけの商品や殺虫剤が売られるなど社会全体として昆虫を締め出す動きがありますね。しかし、恐怖を感じるのは相手のことをよく知らないからなんです。だから、この展覧会のねらいは人々が昆虫についてもっとよく知り、共存できるようにすることです。」

この展覧会で公開されているヤンバルテナゴコガネのホロタイプ標本について聞くと、「ヤンバルテナゴコガネは1984年に新種として記載された。ホロタイプ標本が作られたのは、これは火事や地震などの災害だけでなく、盗難にも警戒しなければなりません。そして、この種自体が絶滅の危機に瀕しているため、みんなで守っていかないとダメです。」と語ってくれた。

最後に高校生に伝えたいことを話してもらった。「今の若い人が虫を嫌がるのは両親の影響が大きいと思います。昆虫嫌いは文化的なものであると言えますね。先ほど言ったように、深く知ることができれば嫌いではなくなります。若い人が昆虫の魅力を見つめ直して好きになってくれると嬉しいですね。」



昆虫の出現した時代を紹介



標本回廊には数万点が展示されている



巨大模型は全長2mだ



美しい昆虫の標本の数々

誰もが楽しめる 入口すぐには蜂や、蝶などをモデルにした巨大模型が展示されている。それらは細部まで作り込まれており、身近な昆虫の今まで見たことのない姿を見ることができ、本展の目玉の一つである「GGの部屋」はゴキブリの標本や生態展示コーナーというところで、名前だけ見れば見学者を限定するように思える。しかし実際にはマガスカルゴゴキブリを筆頭とする可愛らしいと感じられるものや、光沢をもつものなど普段の生活では絶対に見られないゴキブリが展示されており、良い意味で予想を大きく裏切られた。もう一つの目玉であるヤンバルテナゴコガネのホロタイプ標本は左右

対称で傷もなく光沢も美しい標本だった。さらに絶滅目の「アリエノブテラ」という古代の昆虫も琥珀に入った状態で展示されており、古代に生きていた昆虫の生態も知ることができ、標本回廊は国内外のさまざまな昆虫の標本が壁一面に隙間なく展示されており圧巻だった。この特別展は普段気にも留めない昆虫が持つ素晴らしいさを知るきっかけになり、さらに世界に一つのもの、古代のものなど珍しい昆虫を見学することができる。美しい標本は昆虫が苦手な方でも楽しめるだろう。オリジナルの音声ガイド(有料)が展示物の説明をしてくれるので詳しくないという方でも安心だ。ぜひこの機会に足を運んでみてほしい。